グエン・ドゥック・ホエ先生の日本語教育に関わる半生と教育への思い

Mr. Nguyen Duc Hoe's Life Concerning Japanese Language Education and Thoughts on Education

坪　田　珠　里

〈要旨〉

ドンズー日本語学校は，ベトナム・ホーチミン市で最も古い歴史をもち，また最も規模の大きな日本語学校の内の１つである。同校の校長であるグエン・ドゥック・ホエ先生（1940年生）は，ベトナムの日本語教育の発展及び対日理解の促進に長年寄与されてきたことから，2020年11月，日本政府より旭日小綬章が授与された。ホエ先生は学校の創設者であり，南ベトナムから国費留学生として日本に留学した経験がある。筆者は受賞に先立つ2019年７月にホエ先生に対する聞き取り調査を行なった。本稿は主に，ホエ先生の帰国後のキャリアに関して聞き取りの結果をまとめたものである。聞き取りの中で先生は，偶然にも日本語教育に関わることになった経緯，教育を通して祖国の人材育成を行う熱意について語った。その一方で，社会主義国の公的機関で働く中での周囲との思想信条の違いの認識，そして教育こそが，共産党員ではない自分の力が発揮できる場であるとの認識も語られた。

〈Abstract〉

Dong Du Japanese Language School is one of the oldest and largest Japanese language schools in Ho Chi Minh City, Vietnam. Mr. Nguyen Duc Hoe (1940–), the founder and principal of the school, was awarded the Order of the Rising Sun, Gold Rays with Rosette for his long-term contribution to the development of Japanese language education and the promotion of mutual understanding of Japan and Vietnam in November 2020. Mr. Hoe was one of the government-financed international students from Republic of Vietnam in 1970's, and I conducted an interview with Mr. Hoe in July 2019 prior to his receiving of the award. The objective of this study is to summarize the results of the interview regarding his career after having finished studying in Japan, with it being positioned over the flow of history. In the interview, Dr. Hoe talked about his experience how he happened to be involved in Japanese language education, and his enthusiasm for developing human resources in Vietnam through education. Moreover, being a person who have lived in Japan and is not a communist member, he delivered his feeling of awkwardness that he felt when working in government institutions, and realized that education was the place where he could demonstrate his own will as a non-comunist.

1．研究の背景

ベトナムのホーチミン市にあるドンズー日本語学校（Trường Nhật Ngữ Đông Du）は，ホーチミン市の中でも最も古い歴史を持ち，また最も規模の大きな日本語学校の１つである。グエン・ドゥック・ホエ（Nguyễn Đức Hòe）先生（1940年生）は，ドンズー日本語学校の創設者にして現校長先生であるが，ベトナム共和国（南ベトナム）時代のサイゴンから国費留学生として日本に留学した経験がある。ホエ先生は，ベトナムの日本語教育の発展及び対日理解の促進に長年寄与されてきたことから，2020年11月，日本政府より旭日小綬章が授与された人物である。筆者は受賞に先立つ2019年７月，ホエ先生へのインタビューを行ったが，本稿はその内容の一部を聞き書き資料として著したものである。

ホエ先生は長年日本語教育に関わってこられた著名人であるため，これまでさまざまな形でインタビュー記録が残されてきた[1)]。しかし，それらのインタビューの内容は，日本留学時代のことや，日本語学校設立の経緯についての内容が主だったものであり，キャリアの中における日本語の意味について探求したもの，あるいは当時の政治社会状況の中に位置付けた試みはない。

筆者はこれまで，海外の日本語学習者が公教育あるいは日本語学校を卒業した後，つまりその後のキャリアにおける日本語との関わりについて考察することを研究課題とし，ベトナム人の元日本語学習者にインタビューを行なってきた。本稿では，ベトナムの日本語教育の先駆者であるホエ先生の，日本への国費留学から帰国後のキャリアにおいて，当時の政治社会状況の中で，彼がどうして日本語教育に関わることになったのかということのみならず，日本語教育という仕事に携わる中で，日本語教育に対しどのような考えを持つに至ったのかについて，中心的に整理する。

従って，本研究の目的は，元日本語学習者の個人の語りを歴史の流れの中に位置付け，南部ベトナムの日本語教育の一端を明らかにすること，また，日本とベトナム両国を行き来しながら教育者として尽力されてきた個人の思いを読み解くことで，キャリアにおける個人の生と日本語教育との関係を探求するものである。

グッドソン・サイクス（2001/2006）は，研究協力者が語ったデータそのものは「ライフストーリー」と呼ばれるものであり，教育学の研究のためには，それを歴史的文脈に位置づけた「ライフヒストリー」として編成する必要があると説明している。また，桜井（2012）は，ライフストーリーを，語り手と聞き手の相互行為をもとに共同で産出される自己と個人的経験についての物語とし，また，ライフヒストリーを，時系列的に編成された個人の人生の物語であり，口述資料の他に自伝や日記，手紙などの個人的記録も主要な資料源として用いると区別している。そのような区別に基づけば，本稿は，聞き取りを行った内容はまさに個人のライフストーリーであるが，個人の人生の物語を，他のインタビュー記事のような記録を資料源として用いながら再構成している点ではライフヒストリーとも言えるものである。

南ベトナム時代，あるいは南北統一後から1980年代のベトナム南部における日本語教育に関しては，まだあまり研究が進んでおらず，その全貌を把握することが現時点では難しい。資料の不

足が指摘される中で，当時の日本語教育に関する研究を進めるためには，当事者に対する聞き取り調査の必要性があることは，ヴォ（2010）のようなベトナム人研究者も認めているところである。日本語教育の先駆者たちの声は，語られなければ残らない貴重な体験であり，それが積み重ねられることによって，日本語教育のみならず地域研究や歴史研究等の分野においても当時の実情を明らかにするための資料となりうると考えている。

本稿に関わるインタビューは，2019年７月27日にドンズー日本語学校内で２時間程行った。インタビューは，ホエ先生ご自身の率直な思いを忌憚なく語っていただくためにベトナム語で行った。南ベトナムの日本語教育を取り扱った出版物が限られている中，聞き書きデータを一次資料として保存するべく，本稿ではベトナム語での書き起こしと訳文（筆者訳出）両方を載せた。なお，本件インタビューに先立っては，インタビュー内容の書き起こしとテキストの発表に関しご本人の同意を得た。

２．グエン・ドゥック・ホエ先生について

まず，ホエ先生の略歴について記す。ホエ先生は，1940年６月14日，ベトナム北部のフンイエン（Hưng Yên）省に生まれた。その後，家族とともに南ベトナムの首都サイゴン（Sài Gòn）に移り，チューバンアン（Chu Văn An）高校を1958年に卒業後，19歳となった1959年４月に日本に国費留学生として留学した。日本の国費留学生招致制度（国費留学生制度）は1954年に開始され，1960年からは，文系の留学生は東京外国語大学，理系の留学生は千葉大学に受け入れられたが（川上，2016），ホエ先生が渡日した当初はまだ千葉大学での受け入れがなく，京都大学で学ぶことになった，とのことである。

1964年に京都大学を卒業後，ホエ先生は引き続き日本での学業を続け，1967年に東京大学大学院で修士号（物理学）を取得した。一方，大学院在学中には，東京外国語大学でベトナム語の講師をしながら，ベトナム人私費留学生のための私塾「東遊学舎（Đông Du Học xá）」を開講して，私費留学生の支援を始めたのである。その後，ホエ先生は，ベトナム戦争が続いている中，1974年１月にサイゴンに戻ったが，留学で学んだ自然科学に関わる仕事に就くことはなく，南ベトナム政権の投資サービスセンター副所長に任命された。しかし，周囲の人間との考え方の違いからそのわずか２ヶ月後に辞職し，教育の分野に移ると，ヴァンハイン（Vạn Hạnh）大学院行政財政部所長，ヴァンハイン大学院応用化学科学科長などを歴任した。その後は再び経済の分野に従事することになり，1976年より製紙会社工場長，1988年からはサイゴン輸出加工区の所長となり日本からの投資誘致活動を行った。

そして，ドイモイ（Đổi Mới）と呼ばれる市場経済化（1986年以降）が端緒についた1991年，ホエ先生は，それまでの職歴とは畑違いの日本語教育の分野に携わることになる。それが，ドンズー日本語学校の設立である。ドンズー日本語学校は，開校間もない1992年から留学プログラムを開始し，また，青葉奨学金プログラムという学校独自の奨学金プログラムを実施するなど，南

部ベトナムの日本語人材の育成に注力してきた。

ホエ先生は，なぜ自らの学校で日本語教育を行うのかについて，学校のホームページでこう記している。「日本は独特で豊かな文化を持つので，我々は理解し学ばなければならない（中略）。鍵となるのは言語である。日本語教育はまさに，世界における良い文化，テクノロジー，再建と改革における経験を学ぶための新しい言語として紹介するためにある（筆者訳出）」[2)]。ベトナムにおける日本語教育の必要性についてこのように語られつつも，上記の経歴から分かるとおり，ホエ先生は国費留学から帰国後，約15年は日本とも日本語ともほとんど関係のない仕事をされていた。日本語を学んだのに日本や日本語に関する仕事がなかった，というのは，ドイモイ以前に日本語を学んだ世代の社会的特徴であり（坪田，2021），それは北ベトナムでも南ベトナムでも同様であったことが分かる。また，詳しくは後述となるが，そもそも日本語を学ぶという行為自体も，自ら選んだというよりは，国から提案されたものであったため，ホエ先生は，自身と日本語との関わりは「偶然」，あるいは「運命」と表現している。

以下，インタビューでの聞き書きを歴史の流れの中に位置付けながら記す。

３．歴史の流れに位置付けた聞き書きの内容

【日本留学の経緯】

第二次世界大戦後，ベトナムは南北ベトナムに分断された[3)]。南ベトナムは引き続きフランスの強い影響下にあったが，1955年以降はフランス式の教育制度に替えて，ベトナム政府が主体となって策定された教育制度に置き換えられていった（Ngo, 2018）。ただし，南ベトナム成立当初はフランスからの政治・経済的関与があったこと，そして，ベトナム国内またはフランスにおいてフランス式の教育を受けた世代が政府や教育機関で重要な地位を占めていたことから，教育システムはフランスのモデルの教育を色濃く受け（近田，2005）また，外国語教育においてもフランス語が大きな地位を占めていた（Van, 2010）。

この時代において，日本は1951年にベトナム国と平和条約を結び，1954年からは，その後に成立したベトナム共和国と戦後賠償・借款交渉を行うなど，一貫して親仏・親米の南ベトナムを外交の相手国としてきた。そして，日本では，1954年から日本政府が費用を負担し留学生を招致する「国費外国人留学生招致制度」（以下，国費留学生制度）が発足したことから，フィリピン，タイ，パキスタン，カンボジア等の国々とともに，南ベトナムからも留学生が招致された（松本，1967）。

ホエ先生はこの制度により国費留学生として日本に渡った。しかし，国費留学生に選ばれた経緯というものも，実は自ら望んだものではなかった。ホエ先生は高校在学中の1950年代，成績優秀者としてフランスに留学した経験があり，卒業後もフランスに国費で留学に派遣される予定であった。しかし，当時の大統領の親族に関係のある友人が急遽選ばれたため，フランス留学の計画が絶たれたという。当時の件につきホエ先生は，「国家の下では皆平等だと思っていた私は，

そのような不条理なやり方は当然納得できませんから，国家に抗議をした」（アジア学生文化協会，2010）が認められず，その代わりに日本留学の枠が与えられたという。

――（筆者）日本に留学することになった経緯について，先生は当時どうお考えでしたか。

（ホエ先生）偶然だよ。日本も留学生を募集していた。それが自分の運命だった（笑い）。自分は高校時代ベトナムで勉強して，その後はフランスに行かれる（筆者注：留学できる）はずだった。でもその代わりに政府が他の場所を選ぶように要求したから，自分は日本を選んだ。当時は若かったし，勉強がただ好きだった。若い時分だから，勉強できるならどこでもよかった。勉強の機会があればそこで勉強するだけだ。

〈Tình cờ. Tình cờ thì ở Nhật cũng đang tuyển vào. Đây là số mệnh. Vì tôi thì được học ở Việt Nam, đi học ở Pháp cơ. Thì thay vào đó chính phủ họ yêu cầu tôi chọn một nơi khác. Thì tôi chọn Nhật. Lúc đó thì hãy còn trẻ, thích học thôi. Thì, thì ... thích học thôi. Trẻ thì lúc đó học đâu cũng được. Có cơ hội học thì học.〉

――（筆者）当時サイゴンから国費留学に行ったのは，先生の他に何人いましたか。

（ホエ先生）自分の年（筆者注：1959年）は，全部で３人，つまり他の２人の友達がいた。３人だけだった。

〈Năm tôi tất cả khoảng có 3 người, có 2 người bạn nữa. Có 3 người thôi.〉

――（筆者）他の２人の方は，今はどうされているのでしょうか。

（ホエ先生）２人とも今はアメリカにいる。自分の前には，３世代の「先輩」がいる。自分は第４世代だ（筆者注：「先輩」という言葉は日本語での発語）。

〈Bây giờ 2 người bạn đang ở Hoa Kỳ. Trước tôi thì còn có 3 thế hệ trước tôi - trên tôi “Senpai”. Tôi là thế hệ thứ tư.〉

【東遊学舎の設立】

――（筆者）国費での留学が終わってからは，何をされていたのですか。

（ホエ先生）東京大学に在学中は，東京外大でベトナム語を教えていた。そこで勉強していたのは，ベトナム語の専門家たちだ。多くが自分のような外大の教員を選んで学んだ。先生は…たくさん教えた。M先生やF先生…たくさんだよ。今ではみんなベトナムの専門家だが，そのような世代だ。そこでは３年教えた。

〈Trong lúc tôi ở Tokyo Daigaku thì tôi dạy học ở Tokyo Gaidai. Dạy tiếng Việt. Những người học là những người chuyên viên về tiếng Việt. Phần lớn là chọn tôi - giáo sư của Gaidai. Thầy dạy ...nhiều lắm. Giáo sư M, giáo sư F ...nhiều lắm. Cái thế hệ mà bây giờ các thầy đều là chuyên viên về Việt Nam. Tôi dạy có 3 năm.〉

――（筆者）大学院ではもともと何を専攻されていたのですか。

（ホエ先生）自分は物理専攻だった。元々は自然科学の人間だ。

〈Tôi về vật lý. Thầy vốn là người khoa học tự nhiên.〉

もともと専攻が物理学であったホエ先生であったが，学業の傍ら非常勤講師としてベトナム語を教える仕事もしていた。そして，日本で生活するなかで，私費で日本に留学に来るベトナム人留学生が，日本語の習得や生活へ適応に困難を感じている姿を目の当たりにしていた。彼らに対する言語学習支援と生活支援の必要性を感じたことから，ホエ先生は1964年５月に私塾「東遊学舎」を開設した。昼間は大学院で研究をしながら，夕方以降はベトナム人私費留学生のために，ボランティアで日本語や必要な科目を教えたのである。なお，校名にある東遊（ドンズー）とは，ベトナム独立運動の指導者であったファン・ボイ・チャウ（Phan Bội Châu）の呼びかけにより，フランス領インドシナ時代のベトナムから，多くのベトナム人青年が日本に留学した「東遊（ドンズー）運動」にちなんで名づけられたものである。

――（筆者）東遊学舎を作られたのも大学院時代でしょうか。

（ホエ先生）1967年に東京でベトナム人学生のための宿舎，東遊学舎を開いた。なぜなら，日本に来る私費留学生たちは，誰からも世話してもらえず，彼らの勉強も十分ではないと感じたから，まとめて塾，日本語塾をやろうと思った。学校は，新大久保の国際学友会の，夜間使用していない教室を借りた。学生は，（筆者注：昼間にそれぞれ）日本語学校で勉強するが，自分は夜６時から９時まで教えた。自分も昼間は大学に行っていたから，夕方５時に大学を出てその後教えていた。

〈Tôi mở cư xá cho sinh viên Việt Nam ở Tokyo, Đông Du học xã năm 1967 bởi vì sinh viên tư phí sang Nhật không có ai chăm sóc cả, thì tôi thấy họ học chưa đủ, thì tôi gom lại tôi làm cái juku, Nihongo juku. Trường sở là những lớp học buổi tối không sử dụng của Trường Kokusai Gakuyukai ở Shin Okubo. Sinh viên thì vẫn học ở trường Nhật ngữ, nhưng mà tôi thì buổi tối từ 6h chiều đến 9h tối tôi dạy. Ban ngày tôi đi học. Từ 5h tôi đã rời trường. 6h tôi bắt đầu dạy cho đến 9h tối.〉

（ホエ先生）それから1974年の初め，先輩たちに運営を任せて，自分は国に戻った。残念なことに，1975年の政変以降は，留学生は日本ではなく他の国に行くようになったから，東遊学舎も解散した。彼らに教えて…その後ベトナムに帰ったが，またいつ自分が教えることになるかなんて思いもしなかった。それもまた偶然にすぎない。

〈Đầu năm 1974 tôi về nước, trao lại quyền điều hành cho các Sempai. Rất tiếc sau chính biến 1975, sinh viên bị dao động, một số lớn chuyển đi nước khác, Đông Du Học xá đã giải tán. Tôi dạy họ ... sau đó về Việt Nam tôi cũng không biết bao giờ mà tôi đi dạy học nữa. Tình cờ lại.〉

【南部ベトナムの日本語教育】

ホエ先生は，南ベトナム政権において公的機関のポストが用意されたため，1974年に日本での留学を終えて帰国したが，当時の南ベトナムはまだアメリカとの戦争の最中であった。そして，1975年４月にはサイゴンが陥落し，1976年７月には南北ベトナムの統一とベトナム社会主義共和国の成立が宣言されたが，これ以降，南ベトナムの社会主義化が急速に進められため，戦争の傷がまだ癒えない南部地域の経済や人々の生活への影響は多大なものであった。Phan（2016）によれば，当時南部ベトナムだけでも，「失業者は50万人，傷病兵は240万人，戦争避難者は70万人」（Phan, 2016: 732）いたという。また，南部地域の人民の財産や個人事業も全て国有化され（Nguyen, V. C., 1983），南北通貨の統一が抜き打ち的に発表されるなど（白石，1993），社会経済の実情は混乱を極め，多くのベトナム人や華人が国外への脱出を試みた。

では，当時の日本語教育の状況はどうであっただろうか。南ベトナムでは，1957年よりサイゴン大学現代語センターに対する日本語教育支援が開始された。当時は日本語教師として，竹内与之助氏（後に東京外国語大学教授）や川本邦衛氏（後に慶應義塾大学教授）らのベトナム研究者が派遣された。また，1972年に設立された国際交流基金も，サイゴン大学現代語センターと在南ベトナム日本国大使館広報文化センターに日本語教育専門家を派遣した（平田・有田，2021）。本件史実については，ホエ先生のご記憶も一致している。

――（筆者）70年代の南部では，日本語教育を行なっている機関はあったのでしょうか。

（ホエ先生）あった。サイゴン大学だけだ。ああ，あとはもう１つ，日本大使館の学校があった。大使館には別個の学校があった。日本図書館の中に，日本語を教える学校があった。今の大使公邸の近くだ。日本図書館は1974年…ああ，1975年に閉まった。

〈Có, riêng trường Đại học Sài Gòn tổng hợp. À Còn có một cái trường nữa là trường của Tòa đại sứ Nhật Bản. Riêng khỏi thư viện sách Nhật, trong thư viện đó có một cái trường dạy tiếng Nhật, gần với Tòa lãnh sự bây giờ. Thư viện sách Nhật thì đã đóng cửa năm 1974…. À 1975.〉

一方で，南北統一後，つまり1976年以降の南部ベトナムの日本語教育に関して，その足跡を詳細に辿ることは難しい。その理由の１つはまず，サイゴンにおかれていた日本国大使館が，1976年４月28日を持って引き揚げられ，統一国家の首都である北部の都市ハノイに大使館が開設されたため，南部地域への日本語教育支援の実態が把握しづらくなってしまったことである。さらに，もう１つの理由としては，ベトナム政府がベトナム人と外国人の接触を厳しく制限したことが挙げられる。当時の大使館発外務本省宛の報告には，「（ベトナムは）閉鎖社会であって，公開資料に乏しい。越人との個人的交際は不可能と言ってよく，うわさ話をつかむことさえ容易ではない。」[4]と書かれており，情報の入手が如何に困難であったかが窺い知れる。

平田・有田（2021）によれば，南部ベトナムにおける日本語教育は，1975年以降は制度的に継承されずその実態については明らかにされていない，とされている。しかし，筆者のベトナム現

地調査（2018年実施）におけるインタビュー調査によれば，1980年代もホーチミン市の総合大学（旧サイゴン大学）では日本語教育が継続されていたことがわかっている。1980年には，ハノイの外国語大学の学生30人程がホーチミン市に派遣され，１年間ホーチミン市総合大学で日本語を学んだという[5)]。ただ，当時の日本語教育の規模は，日本とベトナムの疎遠な関係が反映された，ごく小さなものであり，南部ベトナムにおいても日本に関連する仕事はほとんどなかった。日本留学経験者であったホエ先生も，帰国当初は日本とは全く関係のない仕事に就かれていたのである。

【帰国後のキャリア】

――（筆者）ホエ先生は，ベトナムに帰国されてからはどんな仕事をされていたのでしょうか。

（ホエ先生）自分は，ベトナムに帰国後は，経済省で働いた。ベトナム政権のために外国投資の問題を担当していた。解放前は，ベトナムで働いていたんだ。（筆者注：「解放」とは，1975年４月30日に起こった北ベトナムによる南ベトナムの首都，サイゴンの接収のこと。）

〈Tôi làm ở Bộ kinh tế. Tôi về Việt Nam thì tôi làm ở Bộ kinh tế. Tôi phụ trách về vấn đề đầu tư ngoại quốc cho Chính quyền Việt Nam. Trước giải phóng tôi làm Chính quyền Việt Nam.〉

――（筆者）日本で学んだ専門分野とは関係のない部署だったのですね。

（ホエ先生）国に帰ってきた時は，ベトナムにはまだその条件が整っていなかった。研究ができる環境ではないし，本もなかった。だから帰っても専門に関する仕事はしなかった。そういう環境にないからね。その時自分は，ベトナム政権の対外経済を担当していただけだった。外国投資は全て，自分がいる承認委員会で行なった。

〈Bởi vì khi về nước thì Việt Nam không có điều kiện. Không có điều kiện để nghiên cứu, sách vở không có, cho nên về thì tôi không có làm công việc chuyên môn. Tại vì không có điều kiện để làm. Lúc đó tôi chỉ làm phụ trách về kinh tế đối ngoại của Chính quyền Việt Nam. Tất cả những đầu tư ngoại quốc là tôi ở trong Ban xét duyệt các cái đầu tư ngoại quốc.〉

（ホエ先生）この学校（筆者注：ドンズー日本語学校）を開校する前は，私は全国で初めての輸出加工区の所長だった。サイゴン輸出加工区だ。経済連携のある外国との対外連絡を担っていて，自分はその最初の人間だ。それ以前は，ベトナム政権は日本政府とは関係がなかった。しかし，国がドイモイを始めた時，自分はその環境で働けなくなった。1991年の頭だ。

〈Trước khi mở trường này thì tôi là Giám đốc khu chế xuất đầu tiên của khắp cả nước Việt Nam, Saigon Yushutsu Kakoku. Từ đối ngoại liên lạc với ngoại quốc ở liên minh kinh, tế tôi là người đầu tiên. Trước đó thì Chính phủ Việt Nam không có chơi với chính phủ Nhật Bản. Khi Nhà nước đổi mới thì tôi là người không có làm việc được với môi trường đó. Đầu năm 1991.〉

――（筆者）では，経済関係のお仕事をされていた当時，日本語を使うことはありましたか。

（ホエ先生）日本語は使っていなかった。それほど日本語は使うことができなかった。

〈Tôi không sử dụng tiếng Nhật. Tôi không sử dụng được tiếng Nhật mấy.〉

――（筆者）長く日本で日本語を学んだのにそれを使う場がなかったということは，もったいない気もします。

（ホエ先生）自分は科学技術を学んだから，自分にとって日本語は副のものだ。正ではない。専門知識こそが正だ。日本語は英語と同じ，手段であるというだけ。戻ってきたときは，日本語を使うなんて思ってなかったし，日本語を教えに行くなんて考えたこともなかった。

〈Bởi vì tôi học về khoa học kỹ thuật cho nên là tiếng Nhật với tôi chỉ là phụ thôi, chứ với tôi tiếng Nhật không phải là chính. Cái kiến thức chuyên môn mới là chính. Tiếng nhật chỉ là một phương tiện thôi, cũng như tiếng Anh vậy thôi. Khi về tôi làm công việc thì tôi không nghĩ là sử dụng tiếng Nhật, và tôi không bao giờ tôi nghĩ là tôi đi dạy tiếng Nhật cả.〉

1976年以降の南部ベトナムは，政治経済が急速に社会主義化されていったが，個人の自由にも様々な制約が課された。日中職場で働いた後は，夕方には隣組などの大衆組織において，自己批判のセッションを行わなければならなかった。ここでもし，政権と相容れない意見を言えば再教育キャンプに入れられてしまう可能性があった。また，結婚式や葬式でさえ許可を取らずには行うことができず，必ず公安が配置された（Nguyen, V. C., 1983）。さらに，公的組織の中でも，職権を乱用したり，経済的混乱の中で不正を働いたりする風潮も存在したという（白石，1993）。個人の自由が制限されていた一方で，公的組織の中では汚職が横行していた時代であった。

【日本語学校設立の経緯】

――（筆者）日本語教師になるとも思っていなかった，ということですが，では日本語教育に携わることになった経緯を教えてください。

（ホエ先生）自分がまだ輸出加工区の所長をしていた時，1991年３月に投資誘致のことで東京に行って，その時，東京で中国人の学生にたくさん会った。帰国後，ホーチミン市共産党執行委員会での報告のときに，中国のように青年たちを留学させる方法で国を改革していかなければいけない，と報告した。その頃は，教育省大臣（筆者注：ホエ先生がつながりを持っていたチャン・ホン・クワン教育大臣のこと）は辞めていたが，それで…その時，もし自分にそれをやって欲しいなら，自分に学校を開かせる必要がある，と言ったんだ。そんなわけで偶然にこの分野に入った，自分が請うたわけじゃない（笑い）。

〈Tôi đi vận động đầu tư tại Tokyo vao thang 3 nam 1991 khi toi van lam giam doc khu che xuat, thì tôi gặp rất nhiều sinh viên Trung Quốc tại Tokyo. Tôi tìm hiểu và sau khi ve trong báo cáo voi thanh uy, với nhà nước, thi Tôi báo cáo về việc đổi mới bằng cách đưa thanh niên đi du học nhu Trung Quoc lam. Giờ thì ông Bộ Trưởng Bộ Giáo Dục. Như vậy thì ... Lúc đó tôi bảo ờ muốn tôi làm thì tôi làm nhưng phải cho tôi

mở cái trường. Lúc đó tình cờ tôi vào chứ tôi cũng chả có xin.〉

1986年からドイモイ路線が採用されたと言っても，1990年代の初めまで経済は恐慌状態にあった。また，ベトナムは，1991年のソ連崩壊により，突然数十年来の戦略同盟国かつ最大の援助国を失ってしまった。このような状況から，ベトナムにとっては，各方面に開かれた外交関係を築くということが最重要になった（Nguyen, Q. H., 2003）。日本との二国間関係については，ベトナムのカンボジア侵攻をきっかけとして日本がODAを停止（1979年）したことから，北部では日本語教育が停止されるなど関係悪化が続いていたが，1990年代に入ると，91年には中山太郎外務大臣が訪越し，92年にはODAが再開される等，関係改善の機運が高まっていった。このような二国間関係の改善を背景として日系企業の進出も進み，日本語人材の育成が喫緊の課題の１つとなったのである。1991年に設立されたドンズー日本語学校でも，日本の科学技術や文化をベトナムに導入すること，ベトナムの経済発展に資する人材を育成すること等が学校の設立目的に盛り込まれた[6)]。また，同時期，1993年には，ホーチミン市総合大学において，東洋学や旅行・国際学を学ぶための東洋学部が設立され（Khoa Đông phương học, 2003），その中で日本語部門も設置される等，日本語教育をとりまく状況は急速に変化していった。

――（筆者）学校設立の目的は，日本語教育だけでなく，設立当初から留学生の送出にあったわけなのですね。

（ホエ先生）あー，この学校は，学生たちを日本留学に送るために設立したのが最初の目的だ。人々に日本語を教えるというのは，副次的な目的だった。

〈À, trường này lập ra để đào tạo sinh viên đưa đi Nhật du học là mục đích đầu tiên. Mục đích là dạy tiếng nhật cho mọi người đó là mục đích phụ.〉

――（筆者）日本語学校の設立に関しては政府から支援が出たのですか。

（ホエ先生）いや，何の援助もない。何もなかった。全て自分の手でやったから，何の援助もなかった。

〈Không. Không có một tài trợ nào. Không có gì hết. Hoàn toàn là tự tay tôi làm nên không có một sự tài trợ nào.〉

【自らのキャリアについての語り】

――（筆者）では，それまでしていた輸出加工区の所長の職はどうされたのですか。校長の職と平行してされていたんですか。

（ホエ先生）その後は，所長の職は辞した。なぜなら社会主義の影響があったからだ。共産党が権力を握っている。自分は党員ではない。党員ではないのに指揮の任務に就いているのは不適切だ。奇妙だろう？それが，もう自分が仕事をすることが能わない段階だった。

〈Sau đó tôi nghỉ Giám đốc không làm nữa. Tại vì hình ảnh Xã hội chủ nghĩa. Đảng Cộng sản nắm quyền. Tôi không phải là Đảng viên. Tôi là người không phải là người Đảng viên mà giữ nhiệm vụ chỉ huy thì không phù hợp. Rất là lạ đúng không? Đấy là giai đoạn không làm việc được.〉

（ホエ先生）党の中にいる人が全て決定して，自分は何も意見することができない。だから仕事ができなくなったから辞めたんだ。教えを行うために辞職した。「もういい，日本語を教えることに集中しよう」と，そう感じたんだ。

〈Tất cả mọi người trong Đảng họ quyết định hết, tôi không được có ý kiến gì cả. Cho nên tôi không làm việc được nên tôi xin nghỉ. Tôi xin nghỉ để dạy học. Cảm thấy là “Thôi, tập trung vô dạy tiếng Nhật thôi.”〉

──（筆者）日本語学校の開校や経営には色々なご苦労がありましたか。

（ホエ先生）いや，仕事に関してはとてもスムーズだった。学校の開校に関しては，特に困難なことはなかった。多くの人を日本留学に行かせることができた。我々は，教授方法については，独自のものを持っている。日本での教え方とは違うものだ。漢字の特別な勉強方法や特別な訓読みの教え方があって，これはベトナム人にとって難しくないやり方だ。日本の教え方とは全く違う。以前は100％日本から学んだが，独自の教授方法がないと難しいから，我々はやり方を変える必要があると感じた。

〈Không, tôi lại rất thuận lợi. Tôi mở cái này rất thuận lợi không có việc gì khó khăn cả. Trường đã đào tạo rất nhiều người đi đến Nhật. Phương pháp giảng dạy thì luôn luôn có một phương pháp giảng dạy riêng. Khác với những cái gì bên Nhật đang dạy. Tôi có một phương pháp giảng dạy riêng. Chúng tôi có lối học Kanji đặc biệt, tôi có cách dạy Kunyomi một cách đặc biệt và cái này không khó. Bây giờ phương pháp giảng dạy khác hẳn so với Nhật Bản. Trước thì 100% là tôi toàn học từ Nhật, nhưng mà chúng tôi thấy là chúng tôi nên thay đổi dần tại vì chúng tôi khó nếu không có phương pháp dạy riêng.〉

（ホエ先生）今ではかなり多くの学生を日本に行かせることができた。みんな出世して，まだ社長とまでは行かないけれど…でも一部はもう社長になったか。日本の会社の中でも，ベトナム人は課長や部長になっている。自分の学生たちはだいたいが世の中で成功している。

〈Bây giờ cũng đào tạo được. Đưa được khá nhiều sinh viên đi Nhật. Những người đó thì cũng đã trưởng thành, tuy chưa lên Shachou nhưng... mà cũng có một số người lên Shachou rồi. Nhưng mà trong cái công ty của Nhật Bản người Việt Nam cũng được gọi là Kachou, Buchou, Đại khái là học trò tôi đã được phát triển.〉

【自らのキャリアにおける日本語教育の意味】

日本語教育に携わることになった経緯も「偶然」と表現しているホエ先生であるが，インタビューはここから，彼自身の思想および教育論に入っていく。筆者はこの点について，キャリア

における個人の人生と日本語との関係を理解することにおいて重要な内容だと感じ，ホエ先生の語るに任せ話の聞き書きを行った。共産党員ではなかったホエ先生は，公的機関で自分の力を発揮することに限界を感じており，「偶然」にも日本語教育に関わることになったが，その仕事とて，共産党員である他の人に負けていないのだという自負，あるいは自分自身への言い聞かせのような語りが見られた。

――（筆者）日本語学校を設立してからもう約20年経ちますが，他の仕事をしようと思ったことはありますか。

（ホエ先生）うーん…こういうことだ。教育の仕事は金銭のためじゃなく，とても意義のあることだ。だから自分は負けてないと思うし，本当に幸運だと感じる。自分は教育の仕事を選んだが，元々は偶然だ。偶然だけど，この仕事が有意義だと思っている。

〈Uhm... Bởi vì thế này. Cái nghề dạy học này không quá về tiền bạc nhưng rất có ý nghĩa. Cho nên tôi nghĩ ...Tôi không nghĩ hơn thua, và tôi thấy thật may mắn. Và tôi đã chọn ngành giáo dục này nhưng tình cờ thôi. Tình cờ thì tôi thấy là công việc đó lại hữu ích.〉

――（筆者）日本語や日本に関係ある人生を送られてきましたが，それについてはご自身でどうお考えですか。

（ホエ先生）日本に留学して日本について知った。日本人の優れた点を知った。そして自分は，ベトナムが学ばなければならないことをいろいろ知った。だから，運命，そして幸運なことだと思っている。自分は日本社会からとても多くのことを学び，自分が学んだ点はこちら（筆者注：ベトナムのこと）が学ぶために伝えることができた。

〈Thì khi đi du học Nhật thì tôi biết về nước Nhật. Tôi biết về những ưu điểm của người Nhật. Và tôi biết những điều đó Việt Nam cần học. Cho nên tôi thấy là số phận. Tôi may mắn. Tôi học được rất nhiều từ xã hội Nhật và cái chuyện học đó thì truyền đạt được cho việc bên nào học được cái đó.〉

【自らの教育観】

――（筆者）日本語を勉強している今の学生についてはどうお考えですか。

（ホエ先生）今は日本語を勉強するのも本も学校もたくさんあるから簡単だ。学生たちも勉強の機会も，情報もたくさんあるし，外国人と触れ合うことも簡単だから，勉強もよくできる。昔と比較すると，昔はそのようなことがなかった。学生は熱心だけど，熱心の意味が違う。昔は知識を得て理解するために一生懸命勉強したが，今は個人の利益のために日本語を勉強する。以前は，日本語は世界の科学技術を吸収する手段だった。でも今は，日本で働いて個人の利益を得るために日本語を勉強しに行く。昔は個人のために，ということは考えず，社会のために，ということをより多く考えていた。

〈Ngày nay thì học Nhật ngữ dễ bởi có nhiều sách, có nhiều trường. Học trò có nhiều cơ hội để học, có

nhiều thông tin, tiếp xúc người ngoại quốc dễ dàng cho nên học rất là tốt. So với ngày xưa thì ngày xưa không có. Sinh viên vẫn nhiệt tình học, nhưng có nhiệt tình mà nhiệt tình cái khác. Ngày xưa người ta học Nhật ngữ là người ta ham học để người ta hiểu biết, nhưng bây giờ người ta học Nhật ngữ vì lợi ích cá nhân. Ngày trước người ta học Nhật ngữ là cái phương tiện để tiếp thu được khoa học kỹ thuật của thế giới. Nhưng bây giờ người ta đi học tiếng Nhật để đi sang Nhật làm việc để vì lợi ích cá nhân. Trước đây thì họ không nghĩ cho cá nhân, họ nghĩ cho xã hội nhiều hơn.〉

（ホエ先生）今の人間は個人主義だ。以前は，人間は国のものであり，集団のものだった。

ベトナム人は国を愛し，何をするにも社会のためだった。でも今の人間は個人のためだけに存在する。その２つはとても違うものだ。

〈Con người bây giờ thì người ta cá nhân chủ nghĩa. Trước đây thì con người là của đất nước, của tập thể. Con người yêu nước, tất cả nghĩ là làm cái gì cho xã hội. Nhưng con người bây giờ tồn tại vì cá nhân họ thôi. Hai cái nó khác nhau nhiều lắm.〉

――（筆者）でもそれもいいことですよね。個人が安定して平和の中で生きられれば。

（ホエ先生）いや，１人１人がそれぞれの場所で生きて，人間が解放されたという意味では，個人のために生きられるならみんなそれがいいだろう。でも他の視点から見てみると，そのようになれば集団，集団とは何かというと，社会，つまり国のことだが，誰も考えなくなる。昔は人々には国しか，愛国しかなく，個人は国のために犠牲になったものだ（笑い）。今は人々には個人しかない。それは大きな変化だ。

〈Không, trên nghĩa là trên mỗi người xét một chỗ. Trên nghĩa mà con người được giải phóng thì sống cho cá nhân thì mọi người rất là thích. Nhưng mà nếu nhìn trên nhiều khía cạnh thì như vậy thì tập thể, tập thể là gì - là xã hội, là đất nước, không ai nghĩ. Ngày trước là người ta vì chỉ có đất nước, chỉ yêu nước thôi, chứ cá nhân thì phải hy sinh. Thì bây giờ người ta chỉ có cá nhân thôi. Cái đó là cái sự thay đổi lớn.〉

――（筆者）今の人たちは社会のことについては関心がないということですか。

（ホエ先生）そうだ。全ての人が個人を追っている。今のベトナム人は，解放以前のベトナム人ではない。解放以前は，ベトナム人はみんな国を愛していた。だからベトナム人は戦争に勝ったんだ。フランスに勝てて，アメリカに勝てたのは，ベトナム人が国を愛していたからだ。でもみんな過去のものになってしまった。ベトナム人は今，個人のことにしか関心がない。

〈Đúng rồi, tất cả mọi người chạy theo cá nhân. Con người Việt Nam bây giờ không phải là con người trước giải phóng. Trước giải phóng con người thì ta yêu nước. Con người Việt Nam tất cả mọi người đều yêu nước cả. Cho nên là mọi người Việt Nam làm nên những chiến thắng. Thắng được Pháp, thắng được Mỹ, là bởi vì người Việt Nam yêu nước. Nhưng bây giờ tất cả đã về quá khứ. Người Việt Nam bây giờ chỉ biết cá nhân thôi.〉

【日本語を学んだことの自らの影響】

――（筆者）日本での生活を経て，何か自分自身に変わったことがありますか。

（ホエ先生）もちろん変わらせられた（筆者注：「変わった」ではなく，「変化させられた」というニュアンス）。自分は日本で勉強してベトナムに戻ってきたから何かある度に困難にあった。自分は日本で生活して，日本人の考え方に慣れた。ベトナムに帰ってきた時には，日本に戻りたいと思った。もう40年経つがいまだに困難にあう。

〈Tôi bị thay đổi nhiều chứ. Tôi học ở bên Nhật về Việt Nam khi có chuyện thì gặp khó khăn. Tôi quen sống ở Nhật rồi, quen cái suy nghĩ của người Nhật rồi. Khi về Việt Nam tôi cảm thấy muốn quay lại. 40 mấy năm nay về lại gặp khó khăn.〉

――（筆者）例えばどういうことですか。

（ホエ先生）いろいろなことだよ。自分は国の分野では成功しなかった。自分という人間は資本主義社会向けに形成されたというのが少なからずあるからだ。それは違うんだ，分かるか？自分はこのように成功した。でも実はもっと成功しなければならない，もっとだ。でも自分は成功したと言っても限りがある。つまり先生（筆者注：ホエ先生自身）の考え方は，日本人と似ているということだ。

〈Nhiều chứ. Tôi không thành công theo lĩnh vực nhà nước. Và phần là vì con người tôi được hình thành cho xã hội tư bản. Vì nó khác biệt, hiểu không? Tôi thành công như vậy. Thật ra tôi phải thành công hơn nữa, nhiều hơn nữa. Nhưng tôi thành công rất là giới hạn thôi. Tức là cách suy nghĩ của thầy cũng giống như người Nhật Bản.〉

――（筆者）ご自身の背景によってご自身の考え方が周りの人たちと違うということですか。

（ホエ先生）たくさん違う。自分が政府の仕事をしていたのは1974，1975年よりも前だ。自分が働いたのは２ヶ月だけだが，他の人と考えが違っていた。みんな考え方が違っていた。最終的には自分が辞職せざるを得なかった。自分と考え方があまりに違う環境では働けないと思った。分かるか？だからベトナム政権のために働いたのは２ヶ月だけで，辞めなければならなかった。

〈Khác nhiều lắm. Đến lúc tôi làm cho trước năm 75, 74. Tôi làm có 2 tháng thôi và tôi suy nghĩ khác. Tất cả những người đều suy nghĩ khác. Cuối cùng là tôi phải từ chức. Tôi nghĩ là mình không thể làm được trong môi trường người ta nghĩ khác mình được. Hiểu không? Nên tôi làm cho chính quyền Việt Nam có 2 tháng thôi, thì tôi phải nghỉ.〉

――（筆者）何か耐えがたい出来事があったのでしょうか。

（ホエ先生）そうではない。彼ら個人個人の考え方がそれぞれ違うんだ。自分はある考え方をするが，他の人は違うし，またその他の人も考えが違う。今と違って，輸出加工区の所長をしていた時は，他の人の考え方が違っていたというよりは自分の考え方が違っていたようだ。だから

自分は自分の夢を実現できなかった。分かるか？考え方が違うんだ。今の社会ですらそうだ。今の社会問題。今でさえ解決策がみんな違う。都市計画でも経済の計画でも。もちろん彼らが権力者なのだろうが，実際自分は全く同意しない。唯一自分ができる場所が教育だ。

〈Không phải. Chính cá nhân họ suy nghĩ khác nhau. Tôi nghĩ một đằng khác những người khác, người khác cũng nghĩ khác. Không như bây giờ tôi làm Giám đốc cho khu chế xuất nhưng tôi nghĩ khác chứ không phải người ta nghĩ khác. Cho nên tôi không thực hiện được cái ước mơ của tôi. Hiểu không? Bởi suy nghĩ khác nhau. Ngay cả bây giờ xã hội bây giờ cũng vậy. Tất cả vấn đề xã hội bây giờ. Thế bây giờ ta giải quyết hoàn toàn khác nhau. Quy hoạch thành phố, quy hoạch kinh tế. Tất nhiên là bây giờ họ là người cầm quyền, nhưng mà sự thật là tôi không hoàn toàn đồng ý. Cái chỗ duy nhất làm tôi được đó là giáo dục.〉

【ベトナムの若者と現在の教育に対する憂い】

――（筆者）日本のみならず，他の外国に行った留学生たちは，帰国後，社会を変える動力になるでしょうか。

（ホエ先生）（筆者注：留学経験者自身は）たくさん変わる。彼らは日本に行った事のあるベトナム人の特徴を持つようになる。日本人の良いところを得てそれを持ち帰ってくるが，少し難しいだろう。国はここにある。国を変えるには，中の人が変える必要がある。自分では変えられない。

〈Họ thay đổi nhiều. Họ sẽ học được những đặc điểm của người Việt Nam sang Nhật. Học được những cái hay của người Nhật, thì chắc cái họ mang về nhưng hơi khó, đất nước thì ở đây. Thay đổi đất nước thì là những người trong cần thay đổi. Mình không thể thay đổi được.〉

――（筆者）国を変えるには上の人にならなければならないということですか。

（ホエ先生）違う。上の人ではない。教育からだ。ある世代を変えたければ，それは教育からだ。少なくても30年はかかるだろう。上の層，上の階級の人たちも下から上がるもの，つまり教育からということだ。だから国の建設のためには教育の建設が必要だ。明治維新が成功したのは教育が先進的だったからだ。教育が全ての基礎であり，経済は副次的なものだ。教育が得られれば経済を得ることができて，全てを得ることができる。教育がなければ何も得られない。現代の人の過ちは，目の前のことしか見ていないという事だ。今のように教育のことをしっかり見ずにいるのは，誰も気づいていないが，非常に問題だ。教育は衰退している。

〈Không phải, không phải người trên, mà từ giáo dục. Muốn thay đổi một thế hệ thì phải từ giáo dục đi lên. Phải mất tối thiểu 30 năm. Cái thượng tầng, những giai cấp trên thì cũng từ ở dưới đi, từ giáo dục đi. Cho nên việc xây dựng đất nước là phải xây dựng giáo dục. Mình chỉ duy tân và thành công là bởi vì giáo dục thăng tiến. Giáo dục là nền tảng của tất cả, kinh tế là cái phụ. Có giáo dục thì sẽ có kinh tế, sẽ có tất cả. Mà không có giáo dục thì chẳng có cái gì cả. Cái sai lầm của người ta bây giờ là người ta chỉ nhìn cái trước

mắt chứ người ta không nhìn kĩ giáo dục bây giờ là vấn đề vô cùng then chốt mà không ai để ý, giáo dục đang xuống dốc.〉

４．考察と結論

本稿では，元国費留学生であり，ベトナムを代表する日本語学校の創設者であるグエン・ドゥック・ホエ先生へのインタビューデータを歴史の流れと当時の社会経済状況の中に位置付け，日本とベトナム両国を行き来しながら教育者として尽力されてきた個人の思いを中心にまとめた。研究の背景で記したとおり，本研究は，インタビュー自体はライフストーリーの手法で行い，その記述の仕方はライフヒストリーになっている。そのため，まずは，南部ベトナムの日本語教育史の部分につき考察を行う。

ホエ先生は，ベトナム南部日本語教育の礎を築かれた先生であり，現在でも後人の育成に取り組まれている方である。坪田（2021）では，ドイモイ以前の北部ベトナムでは，外国語教育と幹部人材育成が直結しており，日本語を学んだ（学ばせられた）世代は，その後の社会人としてのキャリアにおいて，ロシア語習得者と比較しても，必ずしも社会的立場の上昇が期待できなかった状況にあったことが指摘された。本件インタビューの結果に基づけば，南部ベトナムにおいても同様に，旧宗主国のフランス語のような言語ではなく，また，共産主義諸国の言語でもない日本語を学んだ世代のキャリアは，日本とベトナム関係の脆弱さの影響を直接的に受けたものだったことが推測される。一方で，本件のような単発のインタビューだけでは，到底，南ベトナムの日本語教育史を詳らかにできるようなものではない。海外の日本語教育は，このような先駆者の方々が築かれた礎によって成り立っているものである。従って，ホエ先生のような当時の関係者の方々がまだお元気であるうちに，まだその実態が明らかになっていない南部ベトナム（特に1970年代から80年代）における日本語教育史を明らかにするための聞き取り調査を続ける必要がある。

次に，個人の生の語りの扱いである。ライフヒストリーとはどちらかといえば歴史の再構成に重きを置くものであるが，今回のインタビューでは，歴史の叙述という範疇に収まり切れない個人の生が，熱を帯びて表出されていた。一方で，ホエ先生の語りには，政治社会体制が異なる母国と日本とを行き来し日本語教育に携わる中で，母国で仕事をする中で感じてきた違和感，そして現在の母国の教育に対する危機感が表れていた。また，共産党員ではない自分の力が発揮できるところが教育であったということ，そして，「自分は負けていない」と考える一方で「成功者ではない」「自分はもっと成功しなければならなかった」と考えるような相反する語りの中には，何か果たせなかった思いがあるのではないかと感じ取れた。この「成功」がホエ先生にとってどのような意味を持つのかについて十分聞き取ることができなかったが，坪田（2021）は，社会経済改革前のベトナムにおいては，留学を経験したエリート層の中でも，旧ソ連をはじめとした共産圏諸国と関係する仕事や，共産党員として政府幹部の仕事をする人たちがいわゆる主流の街道

であったことを指摘している。北部ベトナムと同様の状況が，南部ベトナムにもあったことが窺える。

ホエ先生は日本に留学した際，日本に対して「何より，公平な国のあり方が衝撃だった」と感じたという[7)]。そして，資本主義国である日本に留学し，帰国後は母国が社会主義国に変貌したという激動の時代を生きた人であるが，「自分という人間は資本主義社会向けに形成された」と感じるほど，日本留学は自身の内面に影響を与えたようだ。日本に留学するとは，そして日本語を学習するということは，その人物の考え方の形成にまで少なからぬ影響を及ぼす。日本語教育に携わる者は，その危うさを常に自覚し，向き合っていかなければならないということも考えさせられた。

今後の課題は，このようなベトナム人元日本語学習者１人１人の貴重なライフストーリーを積み重ねることで，南部ベトナムにおける日本語教育史の実態解明の一助となるような調査を行うことである。そして，ライフストーリーとライフヒストリーの往還により，海外の日本語教育がおかれた当該国の社会・政治・経済の状況を合わせて分析し，日本語教育史の描写を通じて当該国の社会史を再構成することに取り組んで行くことである。

注

1）例えば，トゥオイ・チェー（Tuổi Trẻ）新聞電子版（2020年12月12日付），山本（2017）やアジア学生文化協会（編）（2010）等がある。

2）ドンズー日本語学校ホームページ「設立の縁」〈http://www.dongdu.edu.vn/index.php/vai-net-v-trng-nht-ng-ong-du/89-c-duyen-thanh-lp〉（2022年５月27日最終確認）

3）本稿中に出てくる「南ベトナム」は，年代によって以下の国家を指すものである：コーチシナ共和国（1946～48年），ベトナム国（1949～55年），ベトナム共和国（1955～75年）。また，「北ベトナム」とは，ベトナム民主共和国（1945～1976年）のことである。ベトナムは1976年の南北統一にあたり「ベトナム社会主義共和国」の国家名となった。

4）外交資料館所蔵外交文書，ファイル名「管理番号「管内情勢報告（昭和59年度）／アジア」（管理番号2016–0224）「件名「管内情勢報告（第１部）の提出」在ベトナム日本国大使発外務大臣宛公信，昭和60年（1985年）１月31日付第54号。

5）2018年11月２日に筆者が実施したハノイ大学講師N. L. 先生に対するインタビューによると以下のとおりである。「ハノイ外国語大学の日本語クラスが閉鎖されてしまったから，1980年にクラスみんなでホーチミン市に移った。30人に満たないくらいだったが。学年としては２学年が一緒になった。先生はルオン・ディン・クア先生の奥さん（筆者注：中村信子氏のこと。また，ルオン・ディン・クア（Lương Định Của）氏とは，南ベトナムからの訪日留学生の１人であり，九州大学で学位を取得した農学者である）。92才くらいだがまだご存命だ。自分たちに少しの間だけ教えてくれた。学校には，３人のベトナム人の先生と，１人の日本人の先生。全部で４人の先生がいた。ホーチミン市ではそれ以前から日本と関係があったからね。日本に留学したことのある人たちが帰ってきて，それで自分たちに教えていたんだ。彼らは大学の正式な教師ではなくて，外から招いた人たちが先生となっていたということだ。」（テキストは筆者が音声データを和訳したもの）。

6）ドンズー日本語学校ホームページ「設立の目的」〈http://dongdu.edu.vn/index.php/vai-net-v-

trng-nht-ng-ong-du/90-mc-ich-thanh-lp-trng-nht-ng-ong-du〉（2022年５月30日最終確認）

７）国際ロータリー第2540地区（秋田県）「NEWS独自の学習法でベトナム人学生に日本語を教えるグエン・ドク・ホエさん」〈https://rid2540akita.org/news/2450.html/〉（2022年９月15日最終確認）

参考文献

Khoa Đông Phương Học, Trường Đại Học Khoa Học Xã Hội và Nhân Văn (2003). *Quan Hệ Việt Nam – Nhật Bản – Những Vấn Đề Lịch Sử và Hiện Đại*. Nhà Xuất Bản Đại Học Quốc Gia Hà Nội.（『越日関係 ── 歴史的および現代の諸問題』ハノイ国家大学出版社）

Ngo Minh Oanh (2018). *Giáo Dục Phổ Thông Miền Nam (1954–1975)*. Nhà Xuất Bản Tổng Hợp Thành Phố Hồ Chí Minh.（『南部普及教育』ホーチミン市総合出版社）

Nguyen Quoc Hung (2003). *Quan Hệ Việt Nam – Nhật Bản Trong Bối Cảnh Quốc Tế Sau Chiến Tranh Lạnh*. Nhà Xuất Bản Trường Đại Học Quốc Gia Thành Phố Hồ Chí Minh.（『冷戦後の国際関係の中における越日関係』ホーチミン市国家大学出版社）

Nguyen Van Canh (1983). *Vietnam Under Communism, 1975–1982*. Hoover Institution Press, Stanford University.

Phan Huy Le (2016). *Vùng Đất Nam Bộ – Quá Trình Hình Thành và Phát Triển*. Nhà Xuất Bản Chính Trị Quốc Gia Sự Thật.（『南部地域 ── 形成と発展の過程』政治国家事実出版社）

Van Van Hoang (2010). The Current Situation and Issues of the Teaching English in Vietnam.『立命館言語文化研究』22（１）：7–18.

グッドソン，I.・サイクス，P.（2006）．高井良健一，山田浩之，藤井泰，白松賢（訳）『ライフヒストリーの教育学 ── 実践から方法論まで』昭和堂（原典，2001）．

ヴォ・ミン・ヴ（2010）．「日仏共同支配期のベトナムにおける日本語教育」『日本研究論文集社会・文化史』ハノイ国家大学付属人文社会科学大学．103–115.

川上尚恵（2016）．「戦後の日本国内の外国人留学生：1950～60年代の「留学生教育問題」を中心として」『神戸大学留学生センター紀要』22：21–40.

公益財団法人　アジア学生文化協会（編）（2010）．『アジアの友』484.

桜井厚（2012）．『現代社会学ライブラリー７　ライフストーリー論』弘文堂．

白石昌也（1993）．『東アジアの国家と社会５　ベトナム　革命と建設のはざま』東京大学出版会．

近田政博（2005）．『近代ベトナム高等教育の政策史』多賀出版．

坪田珠里（2021）．「ソ連や北朝鮮で日本語を学んだベトナム人たちのオーラル・ヒストリー ── 日本語の「学び」と「教え」の経験の解釈 ── 」『日本オーラル・ヒストリー研究』17：97–117.

平田好・有田佳代子（2021）．「失われた国家・ベトナム共和国が残した日本語教育 ── 1970年代のサイゴンからの継承 ── 」2021年度日本語教育学会秋季大会，口頭発表予稿集．

松本尚家（1967）．「留学生の教育補導の諸問題」『厚生補導』19：15–24.

山本公平（2017）．「ベトナムにおける日本語学校の経営存続に関する一考察 ── ドンズー日本語学校を中心に ── 」『広島経済大学経済研究論集』40（2･3）：29–40.

参考サイト

ドンズー日本語学校ホームページ〈http://dongdu.edu.vn/〉（2022年５月31日最終確認）

トゥオイ・チェー新聞電子版（2020年12月12日付）〈https://tuoitre.vn/nha-giao-nguyen-duc-hoe-neu-co-nam-xuong-toi-van-hanh-dien-20201201210645323.htm〉（2022年５月27日最終確認）